

感染症情報 10月3日～9日

府下小児科200医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	708例(堺市 33例)
②RSウイルス感染症	559例(堺市 45例)
③おたふくかぜ	387例(堺市 24例)
④溶連菌感染症	287例(堺市 16例)
⑤手足口病	233例(堺市 8例)

が報告された。

感染症報告数は前週より8.3%増の2,566件であった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、おたふくかぜ、溶連菌感染症、手足口病の順であった。RSウイルス感染症が前週の3位から2位になった。府下で前週比60%増、堺市で55%増であった。当科周囲でも引き続き流行している。堺市衛生研究所からは、例年の同時期に比較してかなり多いとのコメントが出ている。3位のおたふくかぜは府下では前週比7%減で、堺市も8%減であった(26例→24例)。4位の溶連菌感染症は府下で9%減、堺市では前週15例から今回16例で横ばいであった。手足口病が府下では前週122例から今回233例に急増している(91%増)。堺市では4→8例であった。ランク外であるが、当科周囲ではマイコプラズマ肺炎が結構みられる。

府下では上記報告期間中に1例が麻疹と報告されており、まだ終息していない。

風疹の報告はなかった。